

県外派遣報告書

氏 名	土屋 友由		所 属	ク ラ ブ
大 会 名	WJBL サマーキャンプ			
期 間	7月15日 ~ 7月 16日 (大会自体は7月17日まで)			
会 場	静岡県 このはなアリーナ			
スケジュール				
期 日	内 容		場 所	
7月15日	実技研修 1試合、座学研修		静岡県このはなアリーナ	
7月16日	実技研修 1試合		静岡県このはなアリーナ	
会議 講義 内容				
<p>座学研修(東京都TO委員会 河野氏)</p> <p>今シーズンからの変更点として下記6点について説明があった。詳細はWリーグサマーキャンプ2017座学資料参照。</p> <p>1)ショットクロック:コートの外に出そうになるボールを投げ入れる行為について 今までの認識では、外に出そうになるボールを投げ入れてもコントロールとみなさないことが多かったが、今後は【コート内を見ずに頭越しに投げ入れる行為】及び【コート内にいる相手チームのプレイヤーの身体に当てる、または当てようとする行為】についてはコントロールとみなし、すべてリセットとする。しかし、これらの行為を行おうとしてファウルした場合は、今まで通り継続とみなす。</p> <p>2)ショットクロック: ルールの変更点に関する対応 ショット後、ボールが空中にある間にディフェンスファウルが宣された場合、ショットが決まった時などショットクロックの対応を確認した</p> <p>3)ショットクロック:マジック・タイム 例「2ピリオド残り25.2秒にチームAがボールを保持した。その後、ショットクロックの合図がなった時にA1の手にボールがある状態で、ゲームクロックは1.2秒であった。審判はヴァイオリションを宣し、ゲームクロックは0.8秒であった。」→処置としては、1.2秒でゲームを再開する。ただし、この判定を下すのはあくまで審判である為、TOの独断で判断することが無いように、ピリオド終了間近のゲームクロックとショットクロックの時間を把握しておく必要がある。</p> <p>4)ゴールと点数 2017年の競技規則の改定で、ダイアグラムを使ってゲームクロックの止まるタイミングが明記されたが、これによるタイマーとしてのオペレーションが変わることはない。これはあくまでもIRSを使用した時の判定に用いるものである為、認識を持っておくことだけでよい。</p> <p>5)インスタント・リプレイ・システムについて 交代やタイムアウトの請求がある場合、IRSを優先するため、IRS後にさらにタイムアウトを取るかなどはチームによく確認しておく必要がある。この確認は、レフリーを通して確認する方がよい。</p> <p>6)タイムアウトの表示について 第4ピリオド、残り2:00以降でのタイムアウト表示の仕方が変更になった。詳しくは別紙座学資料にて。</p>				
実技				
担当試合	期 日	7月15日	女子	
	対戦カード	シャンソン化粧品	VS	トヨタ自動車
	担 当	ショットクロック・オペレーター		
ミーティング内容		主任 河野 佐紀子(東京都)		

TOチームが、東京都・栃木県・山形県・埼玉県の混成チームであったが、大きなトラブルなくスムーズにゲームを進行できたことはよかった。チームファウルが積み上げ式で、ショットクロックを行いながらだて積み上げるのを忘れてしまうこともあったが、アシスタントスコアラーの声掛けで、問題なく進行できた。このことからTO同士の声掛けが改めて大事なことだと理解でき、役割分担と合わせてチームとしてゲームをスムーズに進行させる気配りを更に磨いていきたい。

実技

担当試合	期 日	7月16日	女子
	対戦カード	トヨタ自動車 VS	デンソー
	担 当	ショットクロック・オペレーター	

ミーティング内容 主任 吉田さん(岩手県)

ゲームとして特に大きなミスなくできた。しかしケースでエンドラインで出そうになるボールをコートに投げ入れる行為があり、結果的にアウトオブバウンズで再開になったので問題なかったが、あのままプレイが続いていたらと思うと、ショットクロックの操作をどうすればよかったのか？と迷うものがあった。なのでボールを投げ入れる行為について早く意識を変えていくようにしていきたい。また主任の方から、ショットクロックとタイマーのオペレーションに関して、残り10秒を切ったからのショットクロックのカウントダウンはタイマーが、ゲームクロックのカウントダウンはショットクロックが行うようにお互いがカバーすることでよりプレイを厚く見れるようになるとアドバイスを頂いた。

全体の感想

今回、初めてWリーグのTO研修会に参加させて頂き、今年度ルール変更によるTOオペレーションであったり、今まで悩んできたマニュアルが明確に分かる結果となり、とても充実した研修会であった。また全国各地からTOチームが集まっていたが、チームによって様々なオペレーションがあり、それぞれ良さが出ていると思う。今後は、それらを県内に持ち帰って業務がきちんと出来るオペレーションを身につけていきたいと思う。

最後になりましたが、今回派遣して頂いた埼玉県バスケットボール協会の皆様、大会関係者の皆様、講師の皆様、お世話になりました全国各地のTO委員の皆様、本当にありがとうございました。今回の経験を県内に還元し、TOチームとして更に精進してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

注) この報告書は、あくまでもベースです。加工して皆さんにわかりやすく報告することに問題はありせん。写真、図等を差し込むこともいいことだと思います。